

今年の夏、日本では異常気象が続いた。6月18日、教会のボランティアチームを引率して日本へ行く前日に関西でM6・1の大きな地震があった。

すぐに友人からラインが入った。ちょうど電車は4、5時間止まった状態だったので、サラリーマンは朝のミーティングや仕事をキャンセルする電話をかけて、電車に閉じ込められたまま。日本の姪っ子からは、「メチャ怖いよー」とラインが入った。次の日、「地震怖くて、昨日は

寝る前にすぐお祈りした。久しぶりにあんなにお祈りした」とまたライン。家の食器が降り始めた。豪雨で川は溢れ、土砂崩れ警報が鳴る。7

南加キリスト教教会連合

異常気象

平田ベツキ

類は割れたり、いろいろと大変だったそうだ。そして、7月4日、ボランティアチームの奉仕が終わり

い」とありえない日本の家の状況を聞いた。西日本を広範囲で襲った豪雨の死者は、200人を大きく超えた。平成に入って最悪の豪雨災害となった。行方不明者は60人以上いる。

8月1日、40度の暑い日、義父の納骨礼拝があった。私は再度日本へ行った。家族親戚と共に礼拝を行い、納骨を終えた。その後、久しぶりに会った親戚一同と会食時に思い出話をした。天国の話、賛美、お祈りなど、クリスチャンは、天国で永遠に神様と共に住む希望をもっている。次の日、親戚の人々から天国についていろいろな質問らしき意見を聞いた。なぜなら、7週間前の6月18日の地震で、小学校のブロック塀が崩れ子供が亡くなった。その女の子は、親戚の伯母の孫であった。

「私たちは神様に命をいただいて日々、生かされている」と聖書が教える事を学んだ異常気象の夏であった。(ウエストロサンゼルス&フェイス合同メソジスト教会日本語部牧師)